

令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立雀宮中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	75人	算数	75人	理科	75人
第5学年	国語	82人	算数	82人	理科	82人

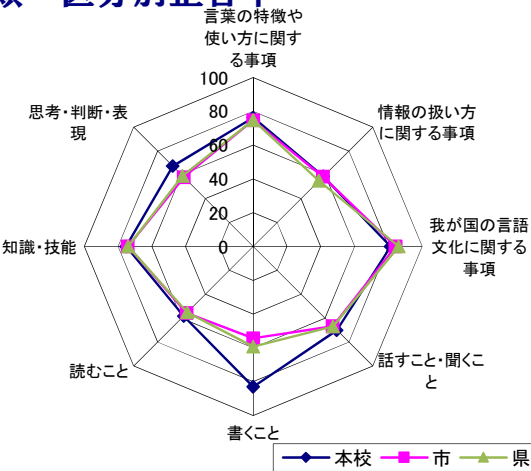
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	76.3	74.7	74.8
	情報の扱いに関する事項	58.7	58.4	55.0
	我が国の言語文化に関する事項	81.3	84.3	86.1
	話すこと・聞くこと	70.0	66.7	66.9
	書くこと	83.0	54.3	59.3
	読むこと	58.2	55.6	55.2
観点	知識・技能	75.2	74.1	74.0
	思考・判断・表現	67.3	58.0	59.1



★指導の工夫と改善

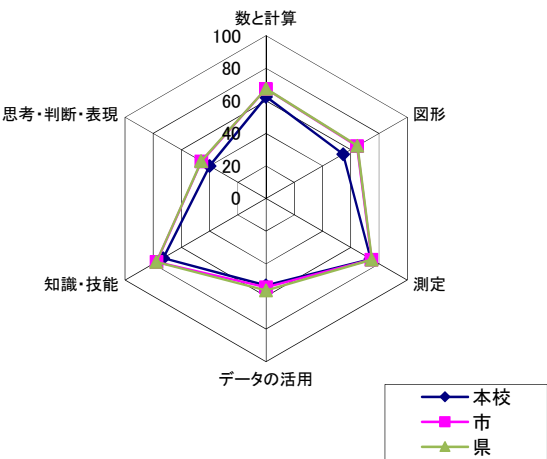
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	・領域の正答率は76.3%で、県と同程度である。 ○漢字を読む問題は、どの問題も正答率が90%を超えており、よくできている。 ●ローマ字の読み方の問題の正答率は53.3%で、県よりも5.8ポイント低い。	・今後も、漢字の読み方の定着のため、音読や読書の推進やドリル学習を図っていく。 ・語彙力を高めるため、日々の授業の中で短文づくりを行っていく。また、ローマ字での文づくりにも取り組ませ、定着を図る。
情報の扱いに関する事項	・領域の正答率は58.7%で、県と同程度である。 ○国語辞典の使い方を理解し、使うことができるかどうかを問う問題で、正答率が58.7%で、県より3.7ポイント高い。	・日々の学習で国語辞典を使う機会を増やし、一つの見出し語に複数の意味があることに気付かせ、文に合った意味を選択することができるようにする。
我が国の言語文化に関する事項	・領域の正答率は81.3%で、県と同程度である。 ●漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解しているかを問う問題で、正答率は81.3%で、県より4.8ポイント低い。	・漢字の学習の際に、へんやつくりを確かめたり、語の意味とのつながりを考えたりさせることで、定着を図る。
話すこと・聞くこと	・領域の正答率は70.0%で、県と同程度である。 ○自分の考えを、理由を挙げながら話すことができるかを問う問題では、正答率が84.0%と、県より9.5ポイント高い。 ●参加者の発言の内容に着目して、司会者の発言に適する内容を書く問題では、正答率が26.7%と、低くなっている。無回答率も22.7%と、高くなっている。	・説明文や物語文の学習においても、話の要点を探して要約する活動に取り組ませ、考えをまとめる力を高められるようにする。 ・学級活動等の話し合い活動の場でも、役割を決めて話合う機会を設け、友達の意見を聞いて、考えをまとめながら話合うことができるようにする。
書くこと	・領域の正答率は83.0%で、県より20.7ポイント高くなっている。 ○2段落構成で文章を書くことができるかを問う問題では、正答率が76.0%で、県より31.5ポイント高くなっている。	・短文づくりや条件に合わせて文章を書く学習を繰り返し行っていく。 ・読書の記録など作文の学習を行い、書く力をさらに高められるようにする。
読むこと	・領域の正答率は58.2%で、県と同程度である。 ○登場人物の気持ちについて、叙述を基に捉えることができるかを問う問題では、正答率が94.7%と高く、県より9.3ポイント高い。 ●叙述を基に段落の内容を捉えることができるかを問う問題では、正答率が28%と、低くなっている。	・説明文などでは、段落の内容を捉えることができるように、中心となる言葉を用いて小見出しをつけたり、文章全体を要約したりする学習を繰り返し行っていく。 ・物語や説明文などの本に親しませ、読書の記録や紹介カードを作ることで、内容を捉える力を高める。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	62.5	67.3	67.4
	図形	54.7	64.5	64.7
	測定	74.0	74.7	74.9
	データの活用	53.3	54.4	56.4
観点	知識・技能	72.9	77.6	77.8
	思考・判断・表現	40.0	45.8	46.1



★指導の工夫と改善

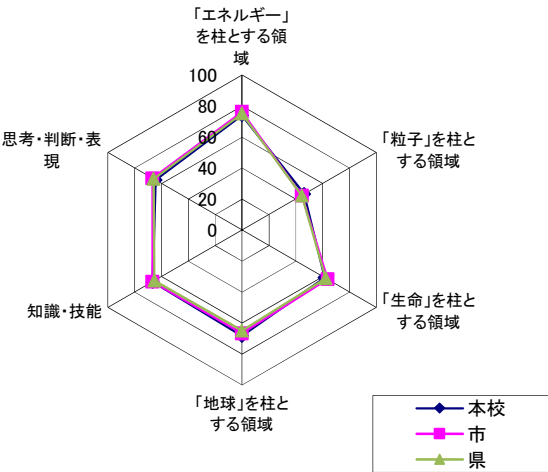
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・領域の正答率は、62.5%で、県よりも4.9ポイント低い。 ○大きな数の表し方について正しいものを選ぶ問題では、正答率が県よりも2.8ポイント高い。 ●整数－小数第一位の計算をする問題では、正答率が33.3%で、県よりも14.4ポイント低い。 ●2けた×1けた＝3けたの計算をする問題では、正答率が73.3%で、県より10ポイント低い。	・ひき算、わり算ともに、単に計算ができるだけでなく、なぜそのような計算になるのかを考えさせる授業を展開し、計算の原理をつかませる。 ・問題に適した図や表、線分図を使って、問題の解き方を考えさせる場面を多く取り入れ、式と意味の理解をつなげていく。
図形	・領域の正答率は、54.7%で、県よりも10ポイント低い。 ●円の半径と直径について正しいものを選ぶ問題では、正答率が、70.7%で、県より10.4ポイント低い。 ●円の中心とコンパスの使い方について、正しいものを選ぶ問題では、正答率が、46.7%で県より13.3ポイント低い。	・半径、直径などの言葉の意味を理解させるために、繰り返し練習問題に取り組みさせ、定着を図る。 ・作図の際、コンパスの使い方を再度確認し、繰り返し取り組みさせることで、正確に図形を描くことができるようにする。
測定	・領域の正答率は、74.0%で、県よりも0.9ポイント低い。 ○身近な物の重さの単位について、正しくないものを選ぶ問題では、正答率が、88.0%と県より7.8ポイント高い。 ●はかりの目盛りを読みとり、重さを答える問題では、正答率が、44.0%と、県より7.1ポイント低い。	・単位を機械的に暗記させるのではなく、単位の意味や原理を理解させ、繰り返し取り組みさせることでさらなる定着を図る。 ・身の回りのものの重さを測定する活動を充実させ、量感を伴って理解させる活動を取り入れる。
データの活用	・領域の正答率は、53.3%で、県よりも3.1ポイント低い。 ○棒グラフを読み取り、2番目に多かったスポーツを答える問題では、正答率が、90.7%で県と同程度である。 ●2つの棒グラフで1目盛りの数が異なることに注意しながら、棒グラフを読み取り、正しいものを選ぶ問題では、正答率が、16.0%で、県より7.6ポイント低い。	・教科書の基礎的問題を使って、「データから項目ごとに読み取る」「項目を組み合わせる」という一連の考え方の定着を図れるようにする。 ・考えたことを文章に表したり、発表したりする場面を今後も設定し、算数への苦手意識を軽減していく。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	74.1	76.2	75.1
	「粒子」を柱とする領域	46.2	44.5	44.5
	「生命」を柱とする領域	61.6	63.6	62.3
	「地球」を柱とする領域	68.3	66.6	64.9
観点	知識・技能	66.7	66.8	65.4
	思考・判断・表現	64.5	66.8	65.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	・領域の正答率は74.1%で、県よりも1.0ポイント低い。 ○電気の通り道に関する問題の正答率は96%で、県より、8ポイント高い。 ○音の大きさの違いと物の震え方に関する問題の正答率は、93.3%で、県より6.7ポイント高い。 ●鉄くぎが磁石になったことを確かめる方法を選ぶ問題の正答率は、64.0%で、県よりも6.5ポイント低い。	・実験をして満足するのではなく、実験結果が正確かどうかを確かめさせる方法を考えさせたり、より妥当な結果ができるように実験を繰り返したりして、理解を深める。 ・用語を単に覚えるだけでなく、覚えたことを応用できるように身近な生活と結び付けて、学習したことが生かされていることを実感できるようにする。 ・明確な課題の提示あるいは仮説の設定、実験の計画から考察までをセットにした構造的な学習を繰り返すようにし、主体的に取り組めるようにすることで、より一層の思考力の育成、知識の着実な定着を図る。
「粒子」を柱とする領域	・領域の正答率は46.2%で、県よりも1.7ポイント高い。 ○物の形を変えたときの重さについての問題の正答率は49.3%で、県よりも3.6ポイント高い。 ○重さをもとに、同じ物質でできている物を選ぶ問題の正答率は、78.7%で県と同程度である。 ●姿勢を変えて図った体重についての問題では、市と同程度であるが、正答率が10.7%であり課題がある。	・物の重さについては、形を変えても重さは変わらないことを理解していることから、実験を行い、体験したことは知識として定着している。今後、実生活の具体的な場面と実験の結果を結び付けることができるように、実験結果から考察したことを丁寧にとおさえることで知識の定着を図る。また、学習したことを自分の経験や日常生活と関連付けて考えられるような授業を展開していく。
「生命」を柱とする領域	・領域の正答率は61.6%で、県よりも0.7ポイント低い。 ○記録カードに関する問題の正答率は、96.0%で、県よりも8.2ポイント高い。 ○アゲハが卵をうみつける場所の問題の正答率は、68.0%で、県よりも7.1ポイント高い。 ●ホウセンカの様子を観察した順に並べ替える問題の正答率は、5.3%で、県より10.7ポイント低い。 ●モンシロチョウが食べるえさの量を選ぶ問題の正答率は、52.0%で、県より11.7ポイント低い。	・日常生活で体験したことを知識として定着させるために、生活と結び付けた実験や観察の方法、考察を指導する。 ・植物の育ち方については、植物を育てながら、草丈の測り方など記録の取り方を指導する。また、蓄積した記録をもとに、成長過程の特徴を押さえながら考察させる。 ・こん虫の育ち方については、モンシロチョウを育てる際、体が大きくなるとえさを食べる量が増え、ふんの量が増えることに気付かせ、体の成長と食べる量の関係は、自分たちの成長と同じであることと結び付けられるようにする。
「地球」を柱とする領域	・領域の正答率は68.3%で、県よりも3.4ポイント高い。 ○かげと太陽の位置に関する問題の正答率は、94.7%で、県より4.4ポイント高い。 ○温度計の使い方を選ぶ問題の正答率は、88.0%で、県より16ポイント高い。 ●正午ごろの温度計のようすを選ぶ問題の正答率は、60.0%で、県より5.5ポイント低い。	・観察する際に、温度計の使い方を確認して記録することを継続するなど、実験器具に触れる機会を確保し、その使い方に慣れさせる。 ・かげと太陽に関する学習では、太陽とかげの関係や日なたと日かげの温度の変化や違いを図を使ってまとめさせることで、知識の定着を図る。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」の質問に肯定的に回答した児童の割合は、88.0%であり、県よりも14.2ポイント高い。「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」の質問に肯定的に回答した児童の割合は、93.4%であり、県よりも9.1ポイント高い。授業での話し合い活動が効果的に行われ、それによって児童の興味・関心が高まり、自ら進んで学習に取り組む姿勢につながっている。

○「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」の質問に肯定的に回答した児童の割合は、80.0%であり県よりも9.6ポイント高い。また、「家で学校の授業の復習をしている」の質問に肯定的に回答した児童の割合は、80.0%であり、県よりも16.4ポイント高い。学校で学習したことを家庭学習で復習することが習慣化されていることが分かる。学校内で、家庭学習の取り組み方について共通理解を図って実践している成果が表れている。

○「本やインターネットなどを利用して、勉強に関するじょうほうを得ている」の質問に肯定的に回答した児童の割合は、78.7%であり県よりも22.5ポイント高い。また、「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」の質問に肯定的に回答した児童の割合は、74.7%であり、県よりも8.5ポイント高い。「雀央っ子ががんばること」の目標である、パソコンや本を学習に活用する習慣が身に付いてきている。

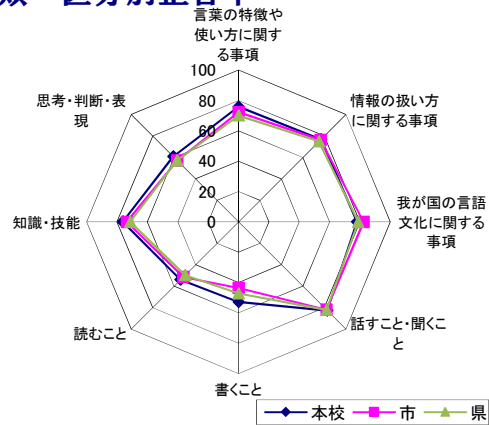
○「学校での役わりや係の仕事にせきにんをもって取り組んでいる」の質問に肯定的に回答した児童の割合は、96.0%であり、また、「学校のきまりを守っている」の質問に肯定的に回答した児童の割合は、100%となっている。ほぼ全ての児童が、規律を守り、自分の仕事に責任をもって取り組んでいることが分かる。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」の質問に肯定的に回答した児童の割合は66.7%で、県よりも4.0ポイント高く、過半数の児童が自分の考えを文章化することを難しいと感じている。各教科や領域において記述する時間を確保したり、授業の振り返りを書いたりすることで、自分の考えを文章にして表現する機会を増やし、書く力を伸ばしていきたい。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	75.9	72.3	70.0
	情報の扱い方にに関する事項	76.8	76.4	74.9
	我が国の言語文化に関する事項	78.1	82.4	78.9
	話すこと・聞くこと	82.6	81.9	82.0
	書くこと	52.7	43.5	47.2
	読むこと	54.0	51.4	49.8
観点	知識・技能	76.2	73.6	71.3
	思考・判断・表現	60.8	57.1	57.2



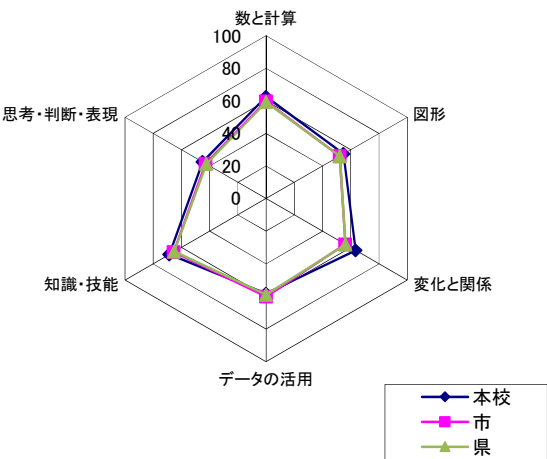
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	・領域の正答率は75.9%で、県よりも5.9ポイント高い。 ○漢字の読みの問題において、「祝う」では、正答率が95.1%で県と同程度である。「材料」「席」では、それぞれの正答率が96.3%、97.6%で、県より5.6ポイント、8ポイント高くなっている。 ○漢字の書きの問題において、「衣類」「旗」では、それぞれの正答率が62.2%、76.8%で、県よりも10.7ポイント、21.6ポイント高くなっている。 ●連用修飾語の問題については、正答率が13.4%で、県より8.9ポイント低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の定着を図った指導を継続してきたことで、成果が出ていると考えられる。今後、正答率が低い漢字を取り上げ、引き続き取組を進めていく。 ・日常生活の具体的な場面を取り上げたり、3学年より継続してきた読書感想文を書いたりすることで、修飾語をより身近なものとして、理解・活用していけるようにする。
情報の扱い方にに関する事項	・領域の正答率は76.8%で、県と同程度である。 ○漢字辞典の使い方を理解し、使うことができるかどうかをみる問題では、正答率が76.8%で、県と同程度である。	・単元に応じて使う場面を意図的に設定し、漢字辞典の使い方に慣れさせるようにする。
我が国の言語文化に関する事項	・領域の正答率は78.1%で、県と同程度である。 ○ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いることができるかどうかをみる問題では、正答率が78.1%で、県と同程度である。	・児童が進んでことわざを調べる機会を設け、日常生活の中で意識して使えるようにする。
話すこと・聞くこと	・領域の正答率は82.6%で、県と同程度である。 ○話し手が話した内容を捉える問題では、正答率が92.7%で、県と同程度である。 ●話し手の工夫の共通点を捉える問題では、正答率が72.0%で、県よりも6.5ポイント低くなっている。	・「話すこと・聞くこと」を扱う単元において、発表を聞くだけでなく、聞き取ったことをまとめる力や、自分の考えと比較しながら聞き取る力など、育てたい力を明確にして活動に取り組ませることで、さらに聞く力を高めていく。 ・意見を述べる時の工夫として、話す順序に着目して話すなど、他教科においても、機会を捉えて指導していく。
書くこと	・領域の正答率は52.7%で、県よりも5.5ポイント高い。 ○指定された長さ、2段落構成で文章を書く問題では、それぞれの正答率が、62.2%、56.1%で、県よりも9.6ポイント、10.2ポイント高い。 ○内容の中心を明確にし、事実と自分の考えを文章に書く問題では正答率が42.7%で、県よりも5.1ポイント高くなっている。	・「○文字以内で書く」や「○段落で書く」、事実をもとに自分の考えを書くというような、指定された形での短作文の練習を今後も繰り返し行っていく。
読むこと	・領域の正答率は54.0%で、県と同程度である。 ○叙述を基に段落相互の関係を捉える問題では、正答率が、65.9%で、県よりも15.3ポイント高い。 ○文章を読んで感じたことや考えたことを共有する問題では、64.6%で、県よりも12.8ポイント高い。 ●叙述を基に文章の内容を捉える問題では、正答率が29.3%で、県よりも3.6ポイント低い。	・説明文の読み取り、読書量の確保、朝の学習を通して習熟を図ってきた成果が表れたと考えられる。今後も継続して、丁寧な説明文の読み取り、読書の推奨、習熟プリントの活用を図っていく。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	62.5	59.7	59.2
	図形	54.9	52.1	52.1
	変化と関係	63.4	56.1	56.3
	データの活用	58.2	60.1	58.9
観点	知識・技能	68.6	65.5	65.1
	思考・判断・表現	45.0	42.9	42.4



★指導の工夫と改善

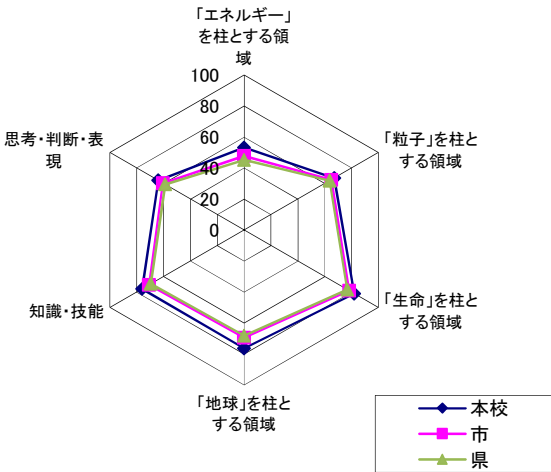
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・領域の正答率は54.9%で、県よりも2.8ポイント高い。 ●面積の単位の関係を説明した文の空欄にあてはまる数を答える問題では、正答率が25.6%と県より2.2ポイント低い。	・問題に適した図や表、数直線を使って、問題の解き方を考えさせる場面を多く取り入れ、理解へとつなげていきたい。 ・立式だけでなく、言葉で式の意味を説明する活動を取り入れていくことで、式と意味の理解を深める。
図形	・領域の正答率は54.9%で、県よりも2.8ポイント高い。 ○複雑な面積の求め方では、正答率が67.1%で、県よりも7.1ポイント高い。 ●面積の単位の関係を説明した文の空欄にあてはまる数を答える問題では、正答率が25.6%と県より2.2ポイント低い。	・三角定規のそれぞれの角など基本的な事項がしっかりと身に付いているかどうかを授業で確認し、繰り返し類似問題に取り組ませることで定着を図る。 ・物の面積に対して正しい見通しがもてるように、授業で学習問題を図式化するなど視覚的に捉え、身近なものの面積についても同様に予想する活動を取り入れていく。
変化と関係	・領域の正答率は63.4%で、県よりも7.1ポイント高い。 ○2つの数量の関係を、もとの大きさの何倍になったかを考えて説明する問題では、正答率が67.1%で県よりも17.8ポイント高い。 ○数量の関係を捉え、正しく表された図を答える問題では、正答率が79.3%で、県よりも10.0ポイント高い。 ●伴って変わる2つの数量関係について分かることを説明する問題では、正答率が23.2%で、県よりも1.8ポイント低くなっている。また無解答率も31.7%で高い。	・普段から算数の学習の中で気付いたことを表現する場面を設けることで、2つの事柄を関係づけて考える力を身に付けさせていく。 ・伴って変わる2つの数量が表された表から読み取ることのできるきまりを見付ける活動を通して、多面的な見方を身に付けさせていく。
データの活用	・領域の正答率は、58.2%で、県よりも0.7ポイント低い。 ○二次元表を読み取る問題では、正答率が84.2%で県よりも4.2ポイント高い。 ●二次元表を読み取り、条件に合わせて計算する問題では、正答率は22.0%と県と同程度であったが、無解答率が県よりも9.8ポイント高く、35.4%であった。	・教科書の基礎的問題を使って、「データから項目ごとに読み取る」「項目を組み合わせる」という一連の考え方の定着を図れるようにする。 ・グラフや表の基本的な見方を理解させたうえで、問題場面や条件を正しく読み取れるよう指導する。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	53.3	47.8	45.3
	「粒子」を柱とする領域	67.2	64.9	63.6
	「生命」を柱とする領域	82.0	78.2	76.8
	「地球」を柱とする領域	76.3	69.5	68.1
観点	知識・技能	76.0	70.8	69.5
	思考・判断・表現	64.1	60.5	58.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	・領域の正答率は、53.3%で、県よりも8ポイント高い。 ○乾電池の名称とつながりに関する設問での正答率が、63.4%で、県よりも5.6ポイント高い。 ○電流の大きさを大きくする回路にするには直列つなぎにするとよいことを問う設問での正答率が、68.3%で県よりも13.9ポイント高い。 ●簡易検流計のふれる向きや針のふれ具合が電流の大きさを表すことを理解しているかを問う設問での正答率が、28.1%と低く、また、無回答率も12.2%と高い。	・直列や並列についてや電池の向きによって流れる電流の向きが変わること、また、用語についても5年での「電流と電磁石」の単元の導入において復習することで定着を図る。 ・簡易検流計など道具を用いて実験するなど、体験的に学ぶ機会が少ないことから、上記の機会を増やして学習すること、そしてその様子を絵や図、表などにまとめる機会を設け、仕組みや原理が身に付けられるようにする。 ・検流計が何を調べるものであるかについて再度確認することで、今後の実験に活用できるようにしておく。
「粒子」を柱とする領域	・領域の正答率は、67.2%で県よりも3.6ポイント高い。 ○金属を温めたり冷やしたりしたときの体積の変化に関する設問での正答率が、82.9%で県よりも13.5ポイント高い。 ○夏の線路のレールのつなぎ目がない理由について、温度による金属の体積の変化をもとに記述できているかに関する設問での正答率が、72.0%で県よりも12.7ポイント高い。一方で無回答率も13.4%と高い。 ●試験管の中の水を冷やす実験において時間の経過とともに水の温度の変化を表すグラフから選ぶ設問での正答率が、48.8%と県よりも6.6ポイント低い。 ●水の温まり方は試験管のどこから温度が上がるのかを問う設問について31.7%と県よりは高いが正答率は低かった。	・実験に対する自分の予想はもちろんのこと、友達の予想がどういう予想なのかをイメージし、自分の予想とどのような違いがあるのかを考えさせる。また、実験の結果のみを求めるのではなく、その途中の変化についてもグラフや表などを用いて確認する機会を増やす。 ・試験管を温めることでどこから温まるのかを示温インクなどを使って再度温めて確認することで定着を図っていく。
「生命」を柱とする領域	・領域の正答率は、82.0%で県よりも5.2ポイント高い。 ○サクラの1年間の成長の変化を理解できているかを問う設問での正答率が、69.5%で県よりも11.6ポイント高い。 ○腕を曲げた時の筋肉の伸びや縮みの様子を問う設問での正答率が、80.5%で県よりも16.5ポイント高い。 ●季節によって気温や動物の様子が違うことを問う設問での正答率が、76.8%県よりも5.1ポイント低い。	・自然や動物などと触れたり、感じたりする場面や機会が非常に少ない。そのため、理科の学習で校外に出て田んぼや畑、林と触れる機会を設けていきたい。

「地球」を柱とする領域	・領域の正答率は、76. 3%で県よりも8. 2ポイント高い。 ○時間の経過とともに月がどのように動くのか、そして動く向きについて理解しているかを問う設問での正答率が、81. 7%で県よりも11. 1ポイント高い。 ○水の流れと地面の傾きの関係を問う設問での正答率が、61. 1%で県よりも22. 8ポイント高い。一方で無回答率も12. 2%と高い。 ○日なたに置いた水槽の水が減る理由が蒸発によるものであると理解できているかを問う設問での正答率が、90. 2%と県よりも15. 6ポイント高かった。 ○冷やしたペットボトルについた水滴は、空気中の水蒸気に変化したものであるということを問う設問での正答率が、78. 1%と20. 5ポイント高かった。 ●「晴れ」「曇り」「雨」など天気の流れ方についての理解ができているかを問う設問での正答率が、69. 5%と県と同程度であった。	・晴れた日は気温の変動が大きく曇りや雨の日は小さいという決まりや月の動きの決まりをただ知識として覚えるのではなく、実際に繰り返し観測して確かめ、様々なパターンから決まりを見出すようにする。そのうえで、なぜそうなるのかを考えさせ、本質的な理解ができるようにする。 ・方位磁石の扱い方において水平や垂直など用語の意味においても理解させたいので方位が調べられるようにしておく。
--------------------	---	---

宇都宮市立雀宮中央小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」の質問の肯定値は、85.4%で県よりも13.8ポイント高い。また4年生時よりも12.2ポイント上昇している。「家で学校の授業の復習をしている」の質問の肯定値も89.1%と、県よりも23.8ポイント高い。「学校の授業時間以外に、ふだん(月～金)、1日当たりどれくらいの時間勉強しますか」の質問では「全くしない」「30分より少ない」と答えた児童が8.5%で、県より7.2ポイント低かった。「家の人と学習について話している」の質問では94%(県より17.9ポイント高い)、「家の人と学校のできごとについて話をしている」の質問では91.5%(県より5ポイント高い)の肯定値であった。これらのことから、家庭の協力も得ながら復習を中心とした家庭学習の習慣はさらに身につけていることが分かる。

●しかし「宿題の量はちょうどよいと思う」の質問では「多すぎる」が28.1%(県より7.4ポイント高い)、「勉強していておもしろい、楽しいと思う」では81.7%(県とほぼ同じ)、「勉強していて不思議だな、なぜだろうと感じる」が82.9%(県より1.2ポイント低い)、「難しい問題にであうと、よりやる気が出る」が50%(県より3.9ポイント低い)と、学習への意欲が低下している。「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つ」ことに96.4%の児童が肯定的に感じている一方で、学習への意欲が下がっていることから、「やらされている学習」「学んだことを繰り返すだけの学習」になっている可能性がある。習得と活用のバランスを意識した授業改善に努めたい。

○4年生時同様「授業を集中して受けている」「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」「先生は学習のことについてほめてくれる」では90%を超える肯定値を示している。また「ねらいとまとめ」を示した授業やノート指導でも90%を超える肯定値を示している。授業内容の明確さと細やかな授業を心掛け授業の充実を図ってきた成果と言える。

●「クラスは発言しやすい雰囲気である」の肯定値が82.9%(県と同程度)であるが、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の肯定値は46.4%と低く、県よりも3.2ポイント低い。「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている(本校の肯定値84.2%)」が、「進んで話し合いに参加している(本校の肯定値78%)」「授業で話し合う活動をよく行っている(本校の肯定値83%)」と伸び代がある。「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」と感じている本校児童は56.1%で県の数値より4.2ポイント低い。それでも半数は苦手を感じていることが分かる。一台端末による交流も大切だが、人と人との直接対話を充実させ、学校全体で認め合う心を育てていきたい。

○●「自分にはよいところがある」の肯定値は89%で県より9.3ポイント高い。「難しいことでも、失敗を恐れず挑戦している」の肯定値も県よりやや高い。しかし、「家の人はあなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」の肯定値では78%で県より7.6ポイント低い。家庭と連携しながら、児童のよさを認め伸ばしていくようにしたい。

宇都宮市立雀宮中央小学校 (第4・5学年共通)
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
表現力向上に向けた一人一台端末の活用の工夫	調べる、まとめる、伝える学習や学習内容の習熟における活用	国語の「書くこと」の領域に関して、領域の正答率は県や市よりも高い。 質問紙の調査結果から、「本やインターネットなどを利用して、勉強に関するじょうほうを得ている」に対する肯定的回答率が県や市よりも高い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
質問紙の調査結果から、「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」と回答した児童が半数以上おり、4年生においては県や市よりも高い。	児童の思考を可視化し、論理的思考力や表現力を育むための一人一台端末の活用の工夫	授業で、自分の考えをまとめる時間を確保し、協働学習ソフトや共有機能を活用した学び合いができるようにする。また、自分の考えや調べたことを提示しながら話し合う活動を意図的に位置付ける。